

# ESD推進のための研修資料

令和7年〇月 暫定版

ページ番号は更新に伴って変更になる可能性があります

## 見直す つなげる 変わる 地域で、世界へ



横浜市教育委員会  
横浜市ESD推進コンソーシアム協議会

「ESD」(持続可能な社会の担い手育成)を進めませんか。

この冊子は、カリキュラムデザインと学校運営をESDの視点で捉え直すことで、子どもも先生も生き生きと学習や教育活動に取り組めることを目的としています。

## もくじ

P.2～ 進めようESD

P.6～ これも？ESD

様々な事例から

P.13～ これぞ！ESD

### ユネスコスクールって、何？

ESDの推進拠点として、ユネスコから認定を受けた学校です。世界中のユネスコスクールとネットワークを組んで、地球規模の課題を考えたり、つながりをつくりながらしています。

ユネスコスクール・ESD推進校の取組から

P. ~ もっともっとESD

ESDの構成概念、重視する能力・態度の活用

ESDチェックシートの利用

価値を引き出す評価・世界が取り組もうとしていること

外部有識者からのメッセージ

関連団体や外部サイトの紹介

※ESDは、Education for Sustainable Development の略で、「持続可能な開発のための教育」と訳されています。

今、世界には気候変動、生物多様性の喪失、資源の枯渇、貧困の拡大等人類の開発活動に起因する様々な問題があります。ESDとは、これらの現代社会の問題を自らの問題として主体的に捉え、人類が将来の世代にわたり恵み豊かな生活を確保できるよう、身近なところから取り組む(think globally, act locally)ことで、問題の解決につながる新たな価値観や行動等の変容をもたらし、持続可能な社会を実現していくことを目指して行う学習・教育活動です。つまり、ESDは持続可能な社会の創り手を育む教育です。

環境、社会、経済、文化の関係性を考慮した総合的な取組が必要とされています。

ESDで大切なのは、私たちが持続可能な未来を創っていくにはどうするかを考えることです。

持続可能な未来について、身近な学校のことから考えてみましょう。

カリキュラムデザインで

- (例) ◎ 学習の深まりが物足りない？ ◎ 遠足の行き先を学習に合わせて変えた方がよい？ ◎ 地域のよさを知る機会にできないかな？  
◎ 世界的な課題は、子どもには難しい？
- 
- 
- 

学校運営で

- (例) ◎ 教材づくりの時間がつくりにくい？ ◎ 地域のイベントは来年もあるのだろうか？ ◎ まちの先生がなかなか見つからない？ ◎ 部活動の指導者が来年はいない？
- 
- 
-

横浜では、カリキュラムデザインと学校運営の両面で、さらに学校が活性化するためには、ESDの充実をめざしています。

### カリキュラム デザイン

各学校の特色や取組を  
ESDの視点で捉え直す

### 学校運営

ESDの視点を加えることで、単元づくりや教材づくりの充実

- 教科等や「横浜の時間」の充実
- 教科横断的な学年暦や年間指導計画等の見直し
- テーマに沿った単元や教材づくり
- 子どもが身に付ける資質・能力、態度の明確化

P.6・7へ

子どもも先生もさらに活気付ける学校全体での取組

- 地域と連携した学校の取組の推進
- 学校が地域と共に創る「未来遺産(レガシー)」
- 教職員の対話の機会を増やす工夫
- 負担軽減のための工夫

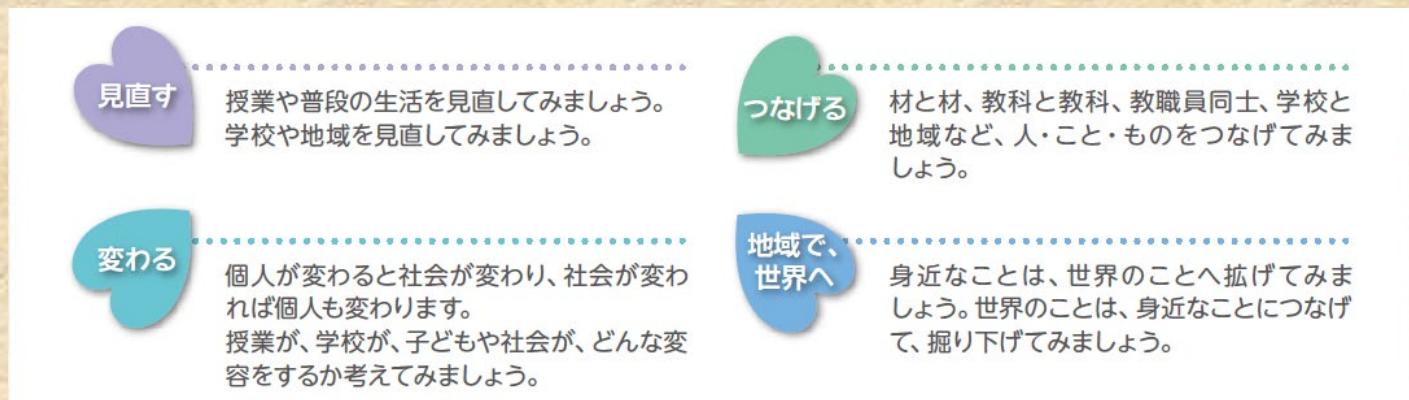
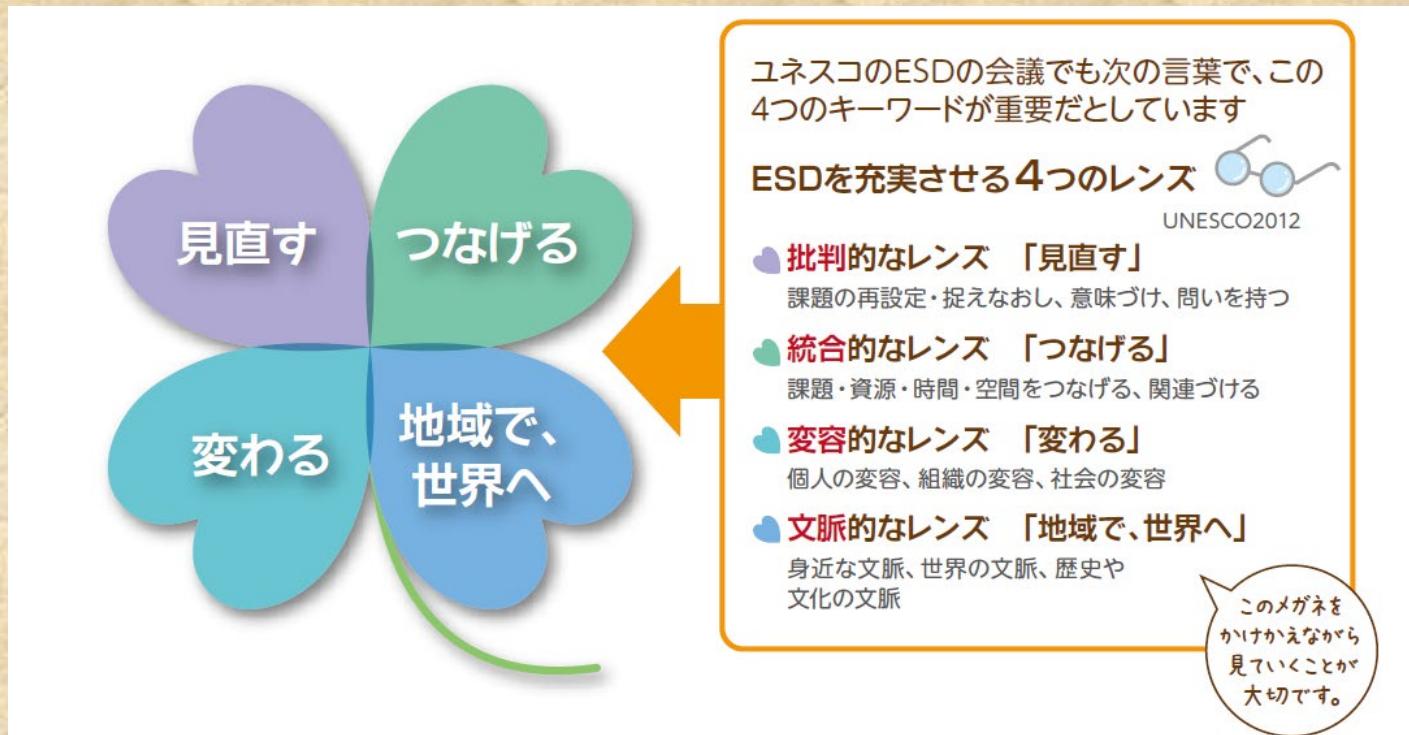
P.8・9へ

- 「ESD=環境教育」だけと思っていませんか?
- 「ESD=『横浜の時間』」だけと思っていませんか?
- 学習内容が、教科等を超えた取組になっていますか?

- 働きやすい職場環境になっていますか?
- 行事や部活動に負担感はありませんか?
- 外部講師・地域人材に頼りすぎていませんか?
- 校内で取り組んでいる人に任せきりにしていませんか?

すでに取り組んでいることを挙げて(評価して・価値を引き出して)みましょう。

## ESDを考えるキーワード



実は、レンズをかけて取り組んでいたことがあれば挙げてみましょう。

例えばできるこんなこと(写真はイメージです)

- 小2生活 野菜づくりの学習 花壇の野菜栽培を、JAや地域の農家とつなげて、専門家が長年続けている技からヒントを学ぶ
- 小6社会 諸外国の学習 日本の他国への技術援助による成果と課題から、その国の生活や資源の問題を考える
- 中3理科 科学技術の利用の学習 様々な資料を見るだけでなく、身近な生活での発見や地域での取組を調べる
- 高校地学 地震学の学習 プレート移動と地震発生のメカニズムの学習から、震源タイプ別の避難想定を考える

学校全体で「人権」などの学びのテーマを決めて、それを各教科、各学級に合わせてできる工夫に取り組むと、学校全体でのESDの実践になります。

#### (例)小学4年 「eco なくらし」

- 1組:国語:説明文をもとにした生活の見直し
- 2組:社会:身の回りのリデュース探し
- 3組:算数:折れ線グラフで表現

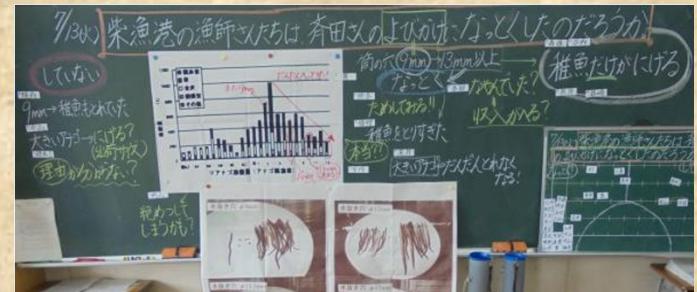


#### (例)中学1年 持続可能な生産と消費

社会科:世界の諸地域

道徳:持続可能な社会づくり

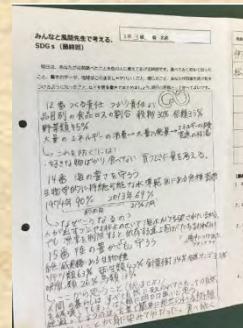
技術・家庭科:消費生活と環境



※ 学びのテーマの例:防災、持続可能な生産と消費、生物多様性、気候変動、国際理解

例えばできるこんなこと(写真はイメージです)

- 商店街や地域コミュニティーバスなどがもっと利用されるようにするには…
- まちの中の危険箇所を調べ、地域の人と一緒に安全 MAP を作成するには…
- 学校の池の生き物を調べ、種類を増やしたり水をきれいにしたりするには…
- 地域の公園の花壇をデザインし、土木事務所や公園愛護会の方などと一緒に植え替えや後方に協力することで…



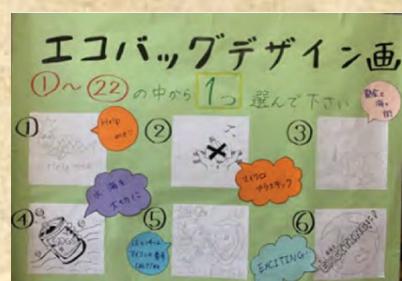
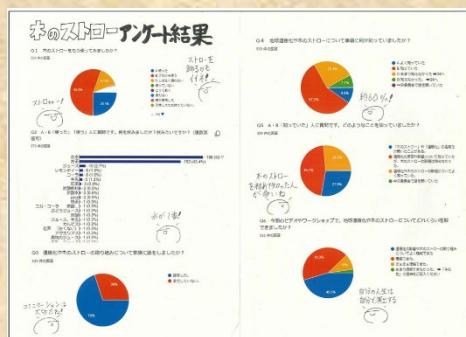
ESDの視点を加えると、学校やまちの未来に残したい「未来遺産(レガシー)」を地域といっしょにつくりあげていくことができます。

中学校では、様々な地域や専門家との学習や活動が展開されています。それを単発で終わらせるのではなく、複数回のかかわりや地球規模での課題などでつなげて振り返ることで、学びの充実を図っていくことができます。

中学校では、様々な地域や専門家との学習や活動が展開されています。それを単発で終わらせるのではなく、複数回のかかわりや地球規模での課題などでつなげて振り返ることで、学びの充実を図っていくことができます。

子どもが課題を設定し、地域や専門家と調査活動をして、振り返る探究的な学習にしましょう。

- 他校の本部役員とオンラインで、取組について発表し合い、意見交換をする。
- 各委員会が、活動をSDGsと紐づけて、これからの活動を考える。
- ESDで重視する能力・態度について、アンケートを取り現状を分析する。
- 学校行事をSDGsの視点でその価値を確認し、次年度の検討をする。
- 花壇の手入れの活動を、全体に呼び掛けて有志で取り組む。
- SDGsすごろくに取り組むことで、学校全体の意識を変えようとする。
- 地域や近隣小学校と一緒に取り組めることを計画する。



すでに取り組んでいたり、ヒントになったりしたことを挙げてみましょう。

カリキュラムや授業を見直すために、学校のさらなる活性化のために、学校全体で校務の見直しや地域・企業等との連携・協働などを見直してみましょう。

- 学校の特色を見直す、変える
- 地域とのつながりを見直す、変える
- 続けてきていることを見直す、つなげる
- 教職員間の関係性や役割を見直す、つなげる、変える



自分たちの守りたいもの、続けたいことは、持続可能ですか？

ちょっとしたアイデアはありませんか？

- ◎ 職員室を明るい雰囲気にするには？ ◎ 校内に緑を増やすには？
- ◎ 楽しく部活に参加するには？ ◎ 子どものアイデアを取り入れるには？

いきなりハードルを上げず、できるところから効率化し、負担を軽減できることはなかなかを考える。

### 例えば…

- 職員室に全教職員が見られる掲示板や休憩コーナーを設ける
- 部活動休養日や閉庁期間を意図的に設ける
- 会議や研修をワークショップやワールドカフェ※など、参加型にする
- 教職員間の関係性や役割を見直す、つなげる、変える

※ カフェのようにリラックスした雰囲気の中で、4～5人単位の小グループで話し合ったり、グループを超えて意見交換をしたりします。自分の意見を否定されず、尊重されるという安心な環境で、相手の意見を聞き、つながりを意識しながら自分の意見を伝えあうものです。

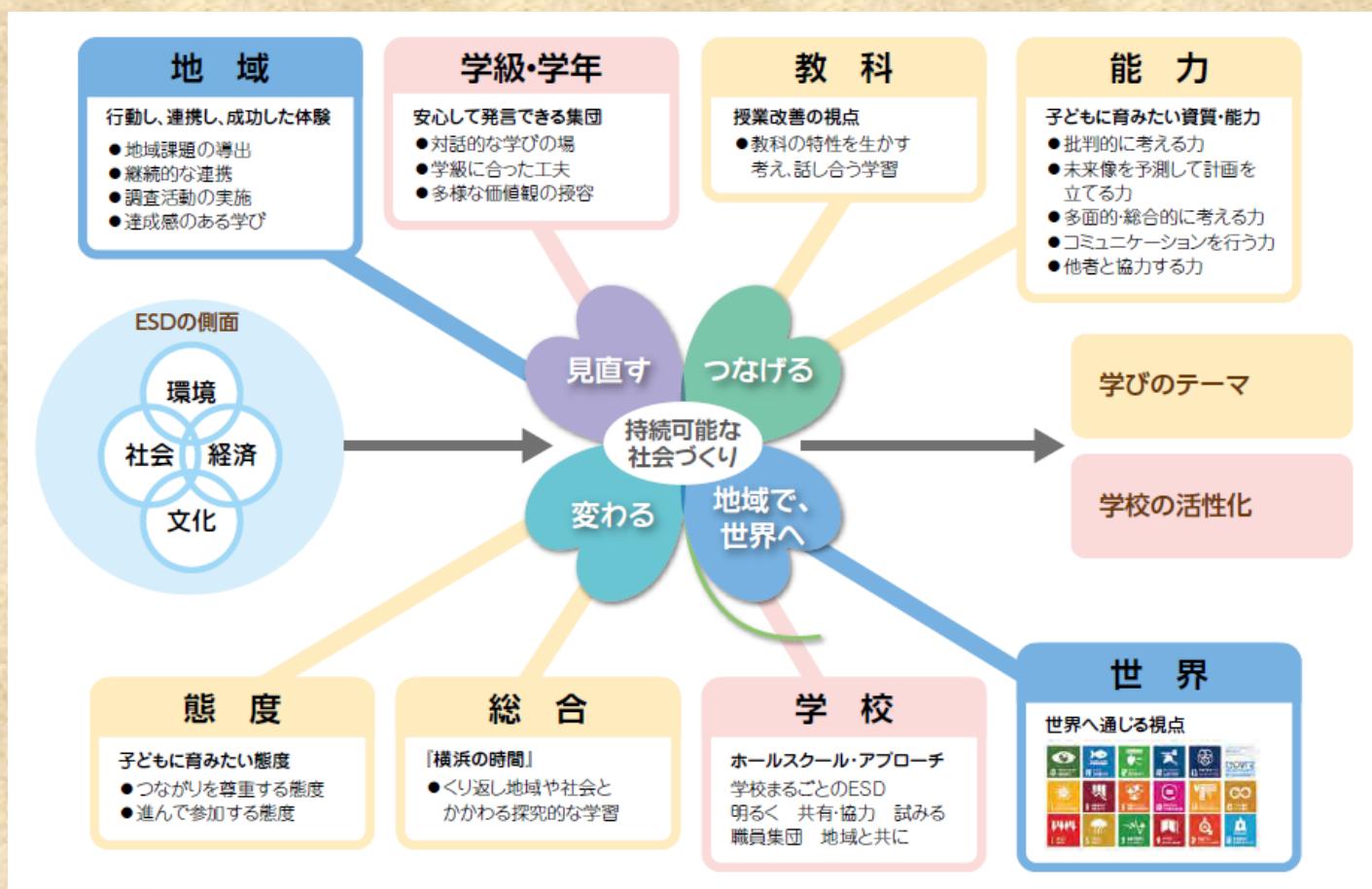
地域や関係機関とのつながりを見直し、中期学校経営方針などにも反映させたり、自分の担える役割を考えたりしてみましょう。

明るく元気な学校を実現するために、行動してくれる教職員が、より活躍しやすいように環境を整え、支えるリーダーの役割が重要です。サーバントリーダーシップも、ESDのアプローチの1つです。

ESDでは、自己変容が社会変容につながることを大切にしています。

### 例えば…

- 教師の意識が変われば、子どもが変わる
- 校長の意識が変われば、教職員が変わる
- 学校が変われば、家庭や地域が変わる



ESD全体像の例 ➡ P\_\_\_\_\_

カリキュラムデザインでは、「教科と総合」のバランス、学校運営では「学級・学年と学校」のバランス、さらに「地域と世界」のバランスなどを意識して構成するようにしていきます。その際、「環境」「経済」「社会」「文化」の側面からカリキュラムデザインや学校運営を考えることで、学びのテーマに迫ったり、学校の活性化を図ったりします。国立教育政策研究所のESDにおける能力・態度や構成概念の例、SDGsなどを参考にしてみましょう。

あなたが考える学びのテーマ、学校の活性化策は？

地域の人材とともに、大学の研究者や企業、行政とども活用しましょう。

世界につながる NGO/NPO 等とつながってみましょう



### 大学

- ◎ 分野を超えたつながりをつくれる研究者がたくさんいます。

### 行政

- ◎ 子どもたちが自然にふれ、環境について学び、考える機会を数多く提供しています。環境教育出前講座
- ◎ こども「いきいき」生き物調査
- ◎ こども「エコ活。」大作戦
- ◎ 施設の見学、体験学習プログラム  
みどり環境局や総務局危機管理課など、横浜市の各部局が協力します。

### NGO/NPO

WWF ジャパン

WWF は、地球温暖化・森林破壊など、現場での最新課題に取り組み、「地球1個分の暮らし」のアクションを呼びかけています。

### 企業

横浜市資源リサイクル事業協同組合

- ◎ SDGs未来都市環境絵日記展を開催しています。平成 12 年に横浜市内の小学生を対象に始まり、現在は国内外からたくさんの応募があります。
- ◎ 環境絵日記が学習ツールとして活用されている事例もあります。

### 国際機関

JICA 横浜

JICA 横浜では、国際協力や異文化への興味を促し、日本と世界のつながりに気付くことを目指したプログラムを実施しています。

## これぞ！ESD ユネスコスクール・ESD推進校の取組を参考に

ユネスコスクール



### 横浜市立東高等学校

育てたい資質・能力

・「言葉の力」と「聞く力」を身につけ、論理的な思考力と  
高いコミュニケーション力

・「主体的な学び」の成果を  
もとに、より高い進路目標の実現に向けて挑戦する力

#### 1年 グローカルシチズンシップキャンプ(GC キャンプ) 課題探求学習の最初の一歩に

自身の考えをみんなに  
向けて話します。



英語で討論し、模造紙にまとめて発表、意見交換します。

「グローカル」とは「グローバル」と「ローカル」を合わせた言葉。世界を見る目をもって、まずは地域で活躍していく人材の育成を目標としたイベントである。40人ほどの留学生が来校し、留学生1名に対して生徒7名ほどのグループを作り、英語でSDGsを題材としたワークショップを2日間実施している。

#### ESD day 関東学院大学との連携



関東学院大学金沢八景キャンパスで実施。基調講演のあと、分科会に参加することで、第9買うでの学びが SDGsに深くつながっていることを感じる機会に。

#### プレミアムプログラムⅡ SDGsに関わる企業との連携



ユネスコスクールである強みを生かし、SDGsを軸にした多くの企業を招聘。意見交換によって、チャレンジ精神や将来を考えるきっかけにもなっている。

#### 地域でのボランティア活動 サスティナブル研究部も活動



ボランティアという形で近隣との交流を実現。商店街イベントに運営スタッフとして参加し、サスティナブル研究部は、継続的にフードドライブ活動に携わる。

#### 馬場小学校との連携 「SDGsに関わる活動報告」



近隣小学校と探究活動や総合的な時間での連携を目指して、サスティナブル研究部の部員が、小学校の教員を対象に活動報告を実施した。

#### 馬場小学校との連携② 生徒がファシリテーターに



左写真の活動報告の後、生徒が自作した SDGsや環境、貧富の差などをモチーフにしたすみごろのワークショップ実施。小学生との連携が見えてきた。

# これぞ！ESD ユネスコスクール・ESD推進校の取組を参考に

ユネスコスクール



## 横浜市立市ヶ尾中学校

「市中から世界を変えよう！」

- 自分で解決する力を大切にします(知・徳・体)
- 心豊かに生きる力を大切にします(公・開)

SDGs達成に向けたプロジェクト型の生徒会活動  
一人一人が持続可能な社会の担い手になれるように

自身のキャリアを考える  
職業講話

市中から世界を変えよう											
委員会	多様な課題とSDGs / 多様な活動とSDGsで学ぶべきSDGs										
	活動目標										
生徒会本部委員	共助共栄 ～市中から世界を変えよう～										
3年学年委員	逆QがMake you										
2年学年委員	状態変化～先輩へ、そして大黒柱へ～										
1年学年委員	太陽～赤学年を明るく照らそう～										
生活	Good life - コロナに負けずよりよい毎日を～										
保健	実験の達人がコロナをふきとす										
環境	市中から広がる環境保全										
図書	No book No life ～人生をと共に～										
放送・広報	Let's look Let's listen Pick up ～新しい情報を得て、みんなの力！～										
情報	一人一人が支える柱へ										
体育大会実行	積突強道										
文化芸術発表実行	Make our happy ～あなたの心の大変が見たいよう～										
選挙管理	変えたい。～あなたの活き一票を～										



1年生は、働くことの多様な価値や働く人の思いを知る。

2年生は、企業から出されたビジネス課題の解決にグループで取り組み、アイデア創造の機会に



学区の小学校と連携して、上履きの回収活動を実施。「NPO法人らいちょう」を通じて、フィリピンへ送る。世界の国の課題を実感する機会となった。



小学校と合同で実施。「笑顔あふれるあいさつ」を目指して各学校を回る。先輩から後輩へと継承しながら活動を続け、意欲や態度の育成につながっている。

生徒の変容を可視化  
変化に着目できる工夫

楽しい	悪い	生産的	生活	家庭	たのしい
行動	悪い	ブラック企業	扶養	パソコン	持つ
弱い	悪い	会社	一生懸命	朝活	すごい
働く	弱い	もらう	仕事	もらえる	無い
働く	弱い	誰かのために	楽しい	仕事	無い
誰かのために	楽しい	楽しい	仕事	もらえる	無い
働く	弱い	出勤	かわいい	幸せ	役に立つ
働く	弱い	忙しい	社会	もらえる	無い
働く	弱い	やりがい	社会	もらえる	無い
働く	弱い	働く	社会	もらえる	無い

前期と後期に実施する委員会アンケートや、職業講話の実施前後に「働くことについてのあなたのイメージ」をテキストマイニングして、変化を明らかに。

## 総合的な学習の時間 わくわく交流会「モルック」



「まち」の人たちとの交流を通して、地域の大人たちがどのような思いで市ヶ尾のまちで暮らし、どのような思いを市中生に抱いているのか知る機会に。

## 東高校 サスティナブル研究部 と生徒有志が交流



市中におけるSDGsのフロンティアの開拓を目指す。「環境」だけでなく、「社会」「経済」にも視野を広げるきっかけになった。

## 全校集会 クイズ大会 「水について考えよう！」



全校生徒に現代の水の課題や知識を得て、考えてもらいたい。東高校との交流で得た「誰もが楽しんで取り組める」活動が実現できる機会に。

# これぞ！ESD ユネスコスクール・ESD推進校の取組を参考に

ユネスコスクール



## 横浜市立永田台小学校

### 「一人ひとりが輝く永田台」

- ・人のこととのつながりを尊重する力
- ・未来を予測して解決する力
- ・協同的に取り組む態度

#### 学校まるごと ESD！ ホールスクールアプローチを「見える化」するサステナブルマップ



職員・PTA・児童が一緒に永田台小学校のいいところを出し合い、100個以上見つけたいいところを一つの絵に表した。児童一人ひとりを学校全体で見守る姿勢が職員文化として根付いている。また、ESDの基盤をケア（気にかける、自分・相手・環境のことを思いやる）におき、枠や型にとらわれず、つながり合って、チャレンジを続けている。

#### 働く環境を見直す 先生のハッピーが子どもたちのハッピーへ



研究会や会議の在り方を見直したり、情報共有を工夫したりしている。職員室にカフェコーナーを作るなどして、人間関係がよくなることで教職員が元気に！

#### 年度始めの共通理解 学校教育目標×ESD

#### 学校教育目標 「一人一人が輝く永田台」

知	徳	体	公	園
知識・論理的思考力 ・問題解決力	情操・感性をもつて表現する力 ・創造的思考力	身体を動かす力 ・運動能力	規則への従順さ ・社会的態度	環境への配慮 ・資源の有効活用
人とのつながり ・協調性	自己表現力 ・表現力	協調性 ・運動能力	規則への従順さ ・社会的態度	環境への配慮 ・資源の有効活用
地域社会への貢献意欲 ・実行力	創造的思考力 ・表現力	協調性 ・運動能力	規則への従順さ ・社会的態度	環境への配慮 ・資源の有効活用

職員で年度始めに、具体的な子どもの姿で育てたい力を共有し、ユネスコスクールの理念とのつながりを確認した。学校教育目標の実現を目指すことが、ESDを通して育成したい資質・能力と紐づいていることを共通理解し、その年の研究をスタートした。

#### 1年「生活科」 一緒に遊んで仲良くなりたい



保育園の先生による読み聞かせをきっかけに「一緒に遊んで仲良くなりたい」と願いをもった。相手の気持ちを考え、優しく話しかけたりすることができた。

#### 3年「総合的な学習の時間」 地域の人と仲良くなりたい



国語の教材文「こまを楽しむ」をきっかけに「永田台の町の人とこまで遊んで、仲良くなりたい」という願いをもって、こまを作り、一緒に遊ぶことができた。

#### 5年「総合的な学習の時間」 人の心に明かりを灯したい



竹灯籠祭りの様子を見て「地域の人の心に明かりを灯したい」と願いをもった。牛乳パック灯籠作りに挑戦した後、地域の専門家に教えてもらいながら取り組んだ。

# これぞ！ESD ユネスコスクール・ESD推進校の取組を参考に

ユネスコスクール



## 横浜市立幸ヶ谷小学校

リフレクションの3つの ion(イオン)  
Question Communication Reflection

### 幸ヶ谷小学校で育てたい 資質能力系統表

幸ヶ谷小学校で育てたい資質能力（系統表）案		
SDGs「第一回川野はめい！」		
1. 知るための学び	身に生きるための学び 人間社会をめぐらすの学び	自分自身と社会を生きるための学び
2. 体	健康な身体	健康的な心
3. 情報	知識をもつて問題を解決する力	問題を解決する力
4. 情感	情熱をもつて問題を解決する力	情熱をもつて問題を解決する力
5. 倫理	社会の規範をもつて問題を解決する力	社会の規範をもつて問題を解決する力
6. 環境	環境をもつて問題を解決する力	環境をもつて問題を解決する力
7. 文化	文化をもつて問題を解決する力	文化をもつて問題を解決する力
8. 技能	技術をもつて問題を解決する力	技術をもつて問題を解決する力

ワークショップ形式での見直しは、教職員からも効果的であるとの肯定的な意見が多数。

### 全教職員が参加しての 業務の見直しの研修会

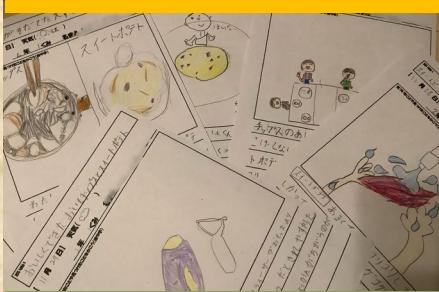


ホールスクールアプローチ実践は単に学校業務や活動をESDの視点で捉え直すだけでなく、職員同士のつながりや同僚性を高める価値にも。

リフレクションでは3つの ion(イオン)というものを視点として共有している。具体的には、Question(問い合わせの質)、Communication(協働的な学び)、Reflection(振り返り)である。

また、研究を進めるにあたり、毎年、幸ヶ谷小学校で育てたい資質能力(系統表)を作成し、年度途中にワークショップ形式で見直す時間を設けている。3つの ion も資質能力表も、学校教育目標を達成するために、大切な視点であり、ESDを具現化したものであると考えている。

2年生「生活科」  
ぐんぐんそだて！サツマイモ！



子ども達は育成の工夫を学ぶだけでなく、実際の調理のアイデアを出して実践したり、オリジナルの歌を作ったりと意欲的に活動を行い、学習は大きな展開へ。

### 4年「総合的な学習の時間」 の sea ゴミの3R 夢大作戦



干潟で感じたゴミ問題の深刻さを伝えたいという目的のもと、海ゴミアートづくりに挑戦。大学教授等の作品に触れて、心を動かす作品を目指して話し合った。

### 5年「総合的な学習の時間」 笑顔で暮らせる地域にしたい



自分たちの住むまちの人が、まちへの愛着心や安心感をもって暮らせるよう、大道芸に挑戦。大道芸人の人の技や思いに触れ、喜びも難しさも学ぶ機会に。

### 6年生「総合的な学習の時間」 名物復活！亀の甲せんべい



14年前にお店の閉店で無くなった亀の甲せんべい。「地域への愛着が深まることにつながるのでは」と、せんべいの型を見つけ、レシピを調べ、名物復活に挑戦。

### 6年「総合的な学習の時間」 平和と平等の虹をかけよう



アートマイルプロジェクトでは、ルワンダの学校と交流を重ね、不平等について話し合うだけでなく、ルワンダの子どもたちの意見を取り入れた文房具支援活動も実施。

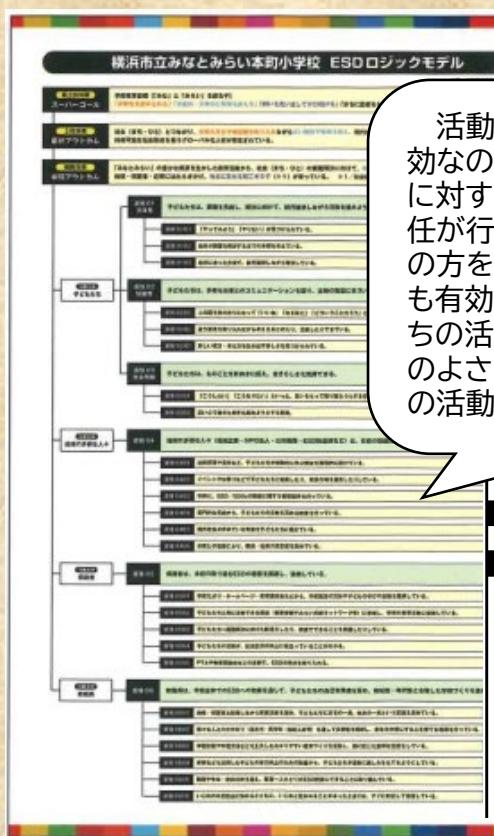
これぞ！ESD ユネスコスクール・ESD推進校の取組を参考に



「みな」と「みらい」を創る子

- ・多様性を認められる
  - ・多面的・多角的に物事を捉える
  - ・問い合わせをして学び続ける・まちに愛着をもつ
  - ・豊かな心をもつ

## 4年「総合的な学習の時間」 NO ポイ捨てプロジェクト



活動の価値を引き出すために有効なのは振り返りの行い方とそれに対する価値付け。価値付けも、担任が行うだけでなく、校長や外部の方を巻き込んで行っていくことも有効。さらに、様々な場で自分たちの活動を発表することで、活動のよさに気付き、自信をもって次の活動に取り組むことにつながる。



平成30年度の開校当初からESDを通して目指す子どもの姿を明確にしたうえで、ロジックモデルを活用して目標と活動のつながりを可視化し、全教職員でESDを研究。また、児童が主体となってESDを推進できるように、学級目標の達成とロジックモデルの達成を関連付けたクラスロジックを作成し、ESDの視点や価値観を児童にも共有。

1年「生活科」  
保育園のみんなと仲良くなろう ➡ ゴールは「ハッピー♪ハッピー  
トランラン♪になってほしい。」



交流する園児に「笑顔になってほしい」という思いから、園児と学校探検や一緒に遊んだりする中で、活動をつくる楽しさや改善していく大切さを実感。

自分たちのめあてや相手を意識できるように、毎回「計画→実行→分析→次の活動へ」のPDCAサイクルで思考ツールを活用して取り組んだ。



近くの公園でゴミ拾い活動をきっかけに、ポイ捨てする人の意識を変えるようと、企業の方に資材を提供してもらい、アップサイクルゴミ箱を製作した。

## メタバース空間で 海外の学校と意見交換



上写真の取組について、メタバース空間でモンゴルの学校との交流では、海外のゴミ問題の実情やその解決方法について意見交換も行って、発信方法を検討した。

## 5年「総合的な学習の時間」 みんな集まれ!アド プ テッド ブ ポ ッツ



まちの調査やインタビューを行い、たくさんのつながりあるまちを目指して、年齢性別障害関係なくできるスポーツで交流し、つながりを深めることに成功。

## これぞ！ESD ユネスコスクール・ESD推進校の取組を参考に

ユネスコスクール

### 横浜市立三保小学校

#### SDGsダイヤモンド・チャートをもとにした児童の変容の可視化



児童に自分の活動が SDGsとどうつながっているか、人との関わりからどのようなことを学んだかについて、自分の変容を意識化、顕在化するために、SDGsダイヤモンド・チャートを用いた話し合いや振り返りを行った。4月に自分の持続可能な社会のとらえを自覚し、12月に自分の変容を振り返ることができた。個人の変容とともに全体の傾向を表とグラフで整理し、SDG13・16が高めなこと、SDG8・9が低めなこと、地域で学んでいるがSDG4・11・12が低く自らの学びや取組の価値の意識を深める必要があることがわかった。

子どもたちは、のオンライン交流会や ESD 推進校の交流報告会の参加等での他校の児童との交流を通して、身近なところから持続可能な開発やライフスタイルについて考えることができた。

#### 1年「生活科」 「地域の人と昔遊びをしよう」



地域の自治会の方に昔遊びを教わり、自分達から質問したり、できるようになったことを報告したりした。今後の学校と地域のつながりに広げていきたい。

#### 3年生「総合的な学習の時間」 「梅田川の魅力を伝えよう」



生き物調査で外来種や絶滅危惧種について知り、水辺愛護会との出会いから、自分たちも三保の生き物や自然を守るために仲間と相談しながら活動した。

#### 5年生「総合的な学習の時間」 「No more 食品ロス！！」



身近な食品ロスの問題について現状や要因を調べ、学校給食プロジェクトとフードバンクプロジェクトの2つを立ち上げて課題解決に取り組んだ。

#### 個別支援学級「総合的な学習の時間」 「もっと学校たんけん」



小中交流日に他校の先生にホットケーキをふるまうなど明確な役割を担うことで自信がつき、次はこれをしたいという思いを一人ひとりがもつことができた。

#### 5年生「総合的な学習の時間」 「SRI~気合いのまちづくりプロジェクト~」



宿泊体験学習のシーグラス作品作りをきっかけに、身近なゴミにもう一度意味を持たせたいと三保のまちをゴミアートで表現し、自己有用感が高まった。

## 「持続可能な社会づくり」の構成概念(例)※と評価の観点とのつながり

### 人を取り巻く環境(自然・文化・社会・経済など)に関する概念

#### I 多様性 (注)各欄の上段が構成概念の定着、下段がその補足説明

自然・文化・社会・経済は、起源・性質・状態などが異なる多種多様な事物(ものごと)から成り立ち、それらの中では多種多様な現象(出来事)が起きていること。

自然・文化・社会・経済は、それぞれの形成過程で様々な様相を見せ、多種多様な事物・現象が存在している。こうした生態学的・文化的・社会的・経済的な多様性を尊重するとともに、自然・文化・社会・経済にかかる事物・現象を多面的に見たり考えたりすることが大切である。

- 例)
  - ・生物は、色、形、大きさなどに違いがあること
  - ・それぞれの地域には、地形や気象などに特色があること
  - ・体に必要な栄養素には、いろいろな種類があること

#### II 相互性

自然・文化・社会・経済は、互いに働き掛け合い、それらの中では物質やエネルギーが移動・循環したり、情報が伝達・流通したりしていること。

自然・文化・社会・経済は、それが互いに働き掛けあうシステムであり、それらの中では物質やエネルギー等が移動・消費されたり循環したりしている。人は、こうしたシステムとのつながりを持ち、さらにその中で人と人が互いにかかわり合っていることを認識することが大切である。

- 例)
  - ・生物は、その周辺の環境とかかわって生きていること
  - ・電気は、光、音、熱などに変えることができること
  - ・食料の中には外国から輸入しているものがあること

#### III 有限性

自然・文化・社会・経済は、有限の環境要因や資源(物質やエネルギー)に支えられながら、不可避的に変化していること。

自然・文化・社会・経済を作り立たせている環境要因や資源(物質やエネルギー)は有限である。こうした有限の物質やエネルギーを将来世代のために有効に使用していくことが求められる。また、有限の資源に支えられている社会の発展には限界があることを認識することも大切である。

- 例)
  - ・物が水に溶ける量には限度があること
  - ・土地は、火山の噴火や地震によって変化すること
  - ・物や金銭の計画的な使い方を考えること

## 人(集団・地域・社会・国など)の意思や行動に関する概念

### IV 公平性

持続可能な社会は、基本的な権利の保障や自然等からの恩恵の享受などが、地域や世代を渡って公平・公正・平等であることを基盤にしていること。

持続可能な社会の基盤は、一人一人の良好な生活や健康が保証・維持・増進されることである。そのためには、人権や生命が尊重され、他者を犠牲にすることなく、権利の保障や恩恵の享受が公平であることが必要であり、これらは地域や国を超えて、世代を渡って保持されることが大切である。

- 例) ・健康でいられるような食事・運動・休養・睡眠などが保証されていること
  - ・自他の権利を大切にすること
  - ・差別をすることなく、公正・公平に努めること

### V 連携性

持続可能な社会は、多様な主体が状況や相互関係などに応じて順応・調和し、互いに連携・協力することにより構築されること。

持続可能な社会の構築・維持は、多様な主体の連携・協力なくしては実現しない。意見の異なる場合や利害の対立する場合などにおいても、その状況にしたがって順応したり、寛容な態度で調和を図ったりしながら、互いに協力して問題を解決していくことが大切である。

- 例) ・地域の人々が協力して、災害の防止に努めていること
  - ・謙虚な心をもち、自分と異なる意見や立場を大切にすること
  - ・近隣の人々とのかかわりを考え、自分の生活を工夫すること

### VI 責任性

持続可能な社会は、多様な主体が将来像に対する責任あるビジョンを持ち、それに向かつて変容・変革することにより構築されること。

持続可能な社会を構築するためには、一人一人がその責任と義務を自覚し、他人任せにするのではなく、自ら進んで行動することが必要である。そのためには、現状を合理的・客観的に把握した上で意思決定し、望ましい将来像に対する責任あるビジョンを持つことが大切である。

- 例) ・我が国が国際社会の中で重要な役割を果たしてきたこと
  - ・働くことの大切さを知り、進んでみんなのために働くこと
  - ・家庭で自分の分担する仕事ができること

(例)※と評価の観点とのつながり

## &lt;キー・コンピテンシー:相互作用的に道具を用いる&gt;

## ① 批判的に考える力 《批判》

合理的、客観的な情報や公平な判断に基づいて本質を見抜き、ものごとを思慮深く、建設的、協調的、代替的に思考・判断する力。

例) ○ 他者の意見や情報を、よく検討・理解して採り入れる。

× 得られたデータや考え方を鵜呑みにする。

○ 積極的・発展的に、よりよい解決策を考える。

× 消極的・悲観的に考え、すぐに諦める。答えだけを得ようとする。

## ② 未来像を予測して計画を立てる力 《未来》

過去や現在に基づき、あるべき未来像(ビジョン)を予想・予測・期待しそれを他者と共有しながら、ものごとを計画する力。

例) ○ 見通しや目的意識をもって計画を立てる。

× 無計画にものごとを進めたり、その場しのぎをしたりする。

○ 他者がどのように受け取るかを想像しながら計画を立てる。

× 独り善がりにものごとを進めてしまう。

## ③ 多面的・総合的に考える力 《多面》

人・もの・こと・社会・自然などのつながり・かかわり・ひろがり(システム)を理解しそれらを多面的・総合的に考える力。

例) ○ 廃棄物も見方によっては資源になると捉えることができる。

× 役に立たないものは不要だと考える。

○ 様々なものごとを関連付けて考える。

× まとまりがなく、きれぎれの見方をする。

## &lt;キー・コンピテンシー:異質な集団で交流する&gt;

## ④ コミュニケーションを行う力 《伝達》

自分の気持ちや考えを伝えるとともに、他者の気持ちや考えを尊重し、積極的にコミュニケーションを行う力。

例) ○ 自分の考えをまとめて簡潔に伝えられる。

× 他者の意見の欠点ばかりを指摘し、自分の考えを言わない。

○ 自分の考えに、他者の意見を取り入れる。

× 他者の意見を聞こうとしない。異質な集団で交流する。

## ⑤ 他者と協力する態度 《協力》

他者の立場に立ち、他者の考え方や行動に共感するとともに、他者と協力・協同しでものごとを進めようとする態度。

- 例) ○相手の立場を考えて行動する。  
    × 自分のことしか考えない。  
○ 仲間を励ましながらチームで活動する。  
    × 身勝手な行動、同調しない態度をとる。

<キー・コンピテンシー：自律的に活動する>

## ⑥ つながりを尊重する態度 《関連》

人・もの・こと・社会・自然などと自分とのつながり・かかわりに関心をもち、それらを尊重し大切にしようとする態度。

- 例) ○自分が様々なものごとつながっていることに関心をもつ。  
    × 自分のすぐ回りのものや直接関係のあることしか関心がない。  
○ いろいろなもののお陰で自分がいることを実感する。  
    × 自分は一人で生きていると思い込む。

## ⑦ 進んで参加する態度 《参加》

集団や社会における自分の発言や行動に責任をもち、自分の役割を踏まえた上で、ものごとに自主的・主体的に参加しようとする態度。

- 例) ○自分の言ったことに責任をもち、約束を守る。  
    × 無責任な行動ばかりできまりを守らない。  
○ 進んで他者のために行動する。  
    × 自分が得をすることしかしない。

※国立教育政策研究所「学校における持続可能な発展のための教育(ESD)に関する研究」  
最終報告書 H24.3

自分や学校で行っている指導が

どの「概念」の理解を深めるものとなっているか  
重視する「資質・能力」を身につけられるような指導になっているか

次ページのチェックシートを活用して、見直したり、評価したりしてみましょう。

## 学習活動を ESD にするために

## ESD チェックシート

授業プランを ESD の視点でとらえてみて下さい。□にチェックを入れてみましょう。

1、ポイントは I ~ VI の「持続可能な社会づくり」の構成概念(例) \* が含まれているかです。

## 知識・技能

- I 多様性：自然・文化・社会・経済は、起源・性質・状態などが異なる多種多様な事物（ものごと）から成立し、それらの中では多種多様な現象(出来事)が起きていること。
- II 相互性：自然・文化・社会・経済は、互いに働き掛け合い、それらの中では物質やエネルギーが移動・循環したり、情報が伝達・流通したりしていること。
- III 有限性：自然・文化・社会・経済は、有限の環境要因や資源（物質やエネルギー）に支えられながら、不可逆的に変化していること。
- IV 公平性：持続可能な社会は、基本的な権利の保障や自然等からの恩恵の享受などが、地域や世代を渡って公平・公正・平等であることを基盤にしていること。
- V 連携性：持続可能な社会は、多様な主体が状況や相互関係などに応じて順応・調和し、互いに連携・協力することにより構築されること。
- VI 責任性：持続可能な社会は、多様な主体が将来像に対する責任あるビジョンを持ち、それに向かって変容・変革することにより構築されること。

2、①~⑦の E S D の視点に立った重視する能力・態度(例) \* のいずれかが育成されますか？

## 思考・判断・表現

- ①《批判》：批判的に考える力。合理的、客観的な情報や公平な判断に基づいて本質を見抜き、ものごとを思慮深く、建設的、協調的、代替的に思考・判断する力。
- ②《未来》：未来像を予測して計画を立てる力。過去や現在に基づき、あるべき未来像（ビジョン）を予想・予測・期待し、それを他者と共有しながらものごとを計画する力。
- ③《多面》：多面的、総合的に考える力。人・もの・こと・社会・自然などのつながり・かかわり・ひろがり(システム)を理解し、それらを多面的、総合的に考える力。
- ④《伝達》：コミュニケーションを行う力。自分の気持ちや考えを伝えるとともに、他者の気持ちや考えを尊重し、積極的にコミュニケーションを行う力。

## 主体的に学習に取り組む態度

- ⑤《協力》：他者と協力する態度。他者の立場に立ち、他者の考え方や行動に共感するとともに、他者と協力・協同してものごとを進めようとする態度。
- ⑥《関連》：つながりを尊重する態度。人・もの・こと・社会・自然などと自分とのつながり・かかわりに関心をもち、それらを尊重し大切にしようとする態度。
- ⑦《参加》：進んで参加する態度。集団や社会における自分の発言や行動に責任をもち、自分の役割を踏まえた上で、ものごとに自主的・主体的に参加しようとする態度。

\*参考：国立教育政策研究所「学校における持続可能な発展のための教育(ESD)に関する研究」最終報告書 H24.3

# もっともっとESD

## SDGs Sustainable Development Goals

- ◎ 国際連合では、2030年に向けた「持続可能な開発目標」を設定しています。
- ◎ 17の目標を達成させるための教育として、ESDが注目されています。
- ◎ 4「質の高い教育をみんなに」17「パートナーシップで目標を実現しよう」は、どの学校でも取り組んでいると思います。4と17を充実させつつ、残る目標も見てみましょう。
- ◎ 世界とつながっているか発想を広げるとき、学習がこの17の目標のどれとつながっているか考えてみるとよいです。1つだけでなく、いくつかにつながってもよいです。
- ◎ 例えば、「防災」や「持続可能な生産と消費」に取り組んでいても、いくつか考えることができるはずです。



「よこはま子ども国際平和スピーチコンテスト」では、共通テーマ「国際平和のために、自分がやりたいこと」を、SDGsの17の視点から考えています。

## 検索してみましょう

- ◎ 文部科学省 ESDポータルサイト
- ◎ ASPnet ユネスコスクール
- ◎ ACCC ユネスコ・アジア文化センター
- ◎ ESD活動支援センター
- ◎ ASPUnivNet ユネスコスクール支援大学間ネットワーク
- ◎ 国立教育政策研究所 ESDリーフレット